

中学校第1学年 美術科 学習指導案

期 日 平成28年10月20日(木)第5, 6校時
場 所 宇城市立松橋中学校 美術室
指導者 教諭 千原 義之

1 題材名

「材料を生かして～伝統を受け継ぐ竹細工作品を、大切な人に贈ろう～」(開隆堂)

2 題材について

(1) 題材観

工芸作品をつくるための身近な素材に竹がある。竹は硬さと柔軟さを備えていることや、手に入りやすく、削る・曲げるなどの加工がしやすい素材である。さらに、繊維の方向に細かく割りやすいことから同質で同じ長さの素材を量産しやすいことや、加工せずとも腐食しにくく保存が容易なため、昔から伝統的工芸品の材料として多く用いられてきた。松橋地区では、昔から竹で漁具や日用品等を制作するなどして盛んに竹製品が作られており、現在も伝統的工芸品として竹細工の技術が受け継がれている。

本題材は、それら竹の持つ性質や特徴を生かして風車を制作することにより、竹の塑性や弾性を理解しながらものづくりの喜びや楽しさを味わわせるとともに、地域の伝統や美術文化への興味関心を一層高めていこうとするものである。竹は生徒が触れたことのある素材であるが、その加工については刃物等の用具を使うため、安全に留意する必要がある。また、竹の編み方も簡単ではなく、基礎的・基本的な知識・技能の習得と見通しをもった取組が必要となるが、今回制作する風車は、編み込んだ竹の見た目も美しく、鑑賞活動にも相応しい作品となる。また、デジタルゲーム機など与えられた楽しさになれた現代の生徒たちにとって非常に新鮮で、面白く感じる題材ではないかと考える。

さらに、「社会に開かれた教育課程」の開発を念頭に置き、美術文化を通して社会や世界との接点を持たせられるような授業を創造していく。今回は地域の中で活躍なさっている竹細工教室の指導者に外部講師依頼をし、教育課程を介して本校の教育目標を社会と共有・連携しながら実現させることをねらいとする題材でもある。本校の教育目標は、「自立心と思いやりの心を持ち、夢にチャレンジする生徒の育成」であり、目指す生徒像として「夢に向かって、自ら学び努力する生徒」が掲げられている。生徒の自発的に学ぼうとする意欲を高めさせるために、美術教師だけでなく熟練の技術を持たれる地域の外部講師と一緒に指導を行う。また、外部講師との対話を通して、生徒が松橋町の伝統・文化に関する思考を広げ深められる機会ともなる。

これらのことから、本題材において竹細工の制作を実施することで、「目標に向け、見通しをもってやりとげる力」という資質・能力の獲得につながり、本校の学校教育目標及び目指す生徒像の実現につながるものであると捉える。

(2) 系統観

| 第1学年(本時) | 第2学年 | 第3学年 |
|--|--|--|
| 「材料を生かして」 松橋町の竹細工 外部講師：竹細工教室指導者等 | 「人がつくる、技を極める」 宇城市の小川凧 外部講師：小川凧職人 | 「生きることと美術」 熊本県伝統工芸館との連携 外部講師：工芸館の職員等 |
| A 表現 (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動 | A 表現 (2) 伝える、使うなどの目的や機能を考え、デザインや工芸などに表現する活動 | B 鑑賞 (1) 美術作品などのよさや美しさを感じ取り味わう活動 |
| ウ 用途や機能、使用する者の気持ち、材料などからの美しさなどを考え、表現の構想を練ること。 | ウ 使用する者の気持ちや機能、夢や想像、造形的な美しさなどを総合的に考え、表現の構想を練ること。 | イ 美術作品などに取り入れられている自然のよさや、自然や身近な環境の中に見られる造形的な美しさなどを感じ取り、～(以下省略) |

(3) 生徒観

- 本学級は男子 19 名、女子 21 名、計 40 名の学級である。生徒は授業に対して真剣に取り組む姿が多く見られる。また、美術に係る興味・関心を持ち、教師の発問につぶやきや挙手をする意欲的な生徒が多い。一方で、表現に自信を持てずに消極的な生徒が 12 名いる。
- 「これからの社会に求められる資質・能力」についてアンケートを行った結果、「目標に向け、見通しを持ってやりとげる力が高まっていると思う」という問いに 53%の生徒ができていると答えている。また、「地域の方の話、地域の伝統及び美術文化などを、自分の考えを持ち、伸ばすために役立てている」という問いに 19%の生徒が役立てていると答えている。このことから、本学級では、半数程度が美術の活動の中で見通しを持ちやりとげることができていないと感じていることが分かる。また、生徒は地域の方や地域の伝統に触れる機会が少ないためか、地域に根ざした美術文化等を授業で生かすことができていない状況であると言える。さらに、これからの社会を見据えて自ら課題を設定してやりとげようとする生徒は見受けられず、生活に美術が豊かに関わり合っていることを実感している生徒もほとんどいない状況である。

(4) 指導観

- 本題材では、制作した風車を家庭に持ち帰り、家族で竹の美しさや加工のしやすさ等について語らう機会を設けるようにしていきたい。そのために、自ら竹の扱い方や加工の仕方を学ぼうとする意欲を持たせたり、美しく仕上がるよう色等を考えたりしながら制作するよう指導したい。
- 制作する風車は、日本に昔から存在する玩具であり、紙やプラスチックで作られたものが市販されている。今回は地域の伝統的な竹細工を鑑賞する機会にすることと合わせて、竹を素材として風車を制作する。それにより、身近な自然素材を工夫して使ってきた先人の生き方や考え方の素晴らしさに触れさせ、地域の伝統工芸に対する興味関心を高める手立てとする。また、竹の持つ様々な性質に多く触れさせるとともに、自ら意図した形や色彩に向けて、自己選択し、決定する機会を増やすなどの工夫しながら制作させることで創造的に表現する技能を高められるよう指導したい。
- 竹細工の参考作品をお借りし、編み込んだ模様や造形の美しさに注目させ、竹細工に取り組んでいこうとする意欲を喚起する。また、竹の持つ風合いや触れた感覚から、金属やプラスチック製品といった工業製品とは異なる素材の持つ温かみについても感じ取らせ、伝統工芸が絶えることなく続いている理由についても考えさせたい。
- 美術が苦手な生徒及び特別な支援を要する生徒へは、完成作品に多く触れさせたり、ICT を活用したりして制作意欲の向上を促すとともに、美術教師や講師による個に応じた指導を重点的に行ったり、グループで協力したりしながら制作するよう取組を継続的に行う。

学びを引き出す

学習活動を生む
「問い」の工夫
(言語活動の充実)

- ①生徒の生活に結び付ける、地元の伝統的工芸品である竹細工を教材化するとともに、題材名を工夫し、目的意識を明確にする。
- ②竹とプラスチックの素材を比較するなど社会や生活に結び付く問いの工夫を行う。

学びを振り返る

思考過程の可視化と
学びの振り返り

- ③毎時間の授業で導入時と整理時の 2 回にわたり「振り返り」の時間を設け、学習シートを基に生徒同士で学習内容を確認し合い、学びの定着を図る。
- ④学習シートに題材計画等を記載し生徒に見通しを持たせるとともに、毎時間のシートをファイルに綴じ、生徒に学びを振り返らせる。

学びを支える

学びのUD化とICT
の活用及び支持的風土

- ⑤複数の具体物に触れさせるとともに、竹の編み方等を理解しやすくするために黒板やICTを活用し、視覚的に繰り返し見せる。
- ⑥生徒同士がお互い協力し助け合い、計画的に制作が進むように 4 人グループでの活動を設定する。
- ⑦生徒が外部講師と対話しながら活動する環境づくりを行う。また、外部講師から地域の美術文化や資質・能力等についても話をしてもらう。

(5) 研究主題との関連

「目標に向け、見通しを持ってやりとげる力」の育成に向けた
生徒の主体的・協働的な学びの充実

○これからの社会に求められる資質・能力として、「目標に向け、見通しを持ってやりとげる力」を設定した。本校の教育目標は「自立心と思いやりの心もち、夢にチャレンジする生徒の育成」である。題材を通して、目標を持ち、挑戦することができる心豊かな人間を育てることが重要であるとする。また、主体的・協働的な学びにより、以上の資質・能力を育むことが、今後必要となる。一人ではなし得ない活動になると予想される。友達と協働し、また、講師に教を乞いながら活動していくことにより、研究主題が達成されるのではないかと考える。

3 題材の目標と評価規準(参考：国立教育政策研究所作成「評価規準の設定例」)

| | | | |
|------------------------------|--|---|---|
| 題材の目標 | <ul style="list-style-type: none"> ○竹細工に関心を持ち、よさや美しさを感じ取り、自ら主体的に風車をつくらうとする態度を身に付けている。 ○自ら課題を設定し、共通事項を踏まえ、和紙やビーズ等の配色や竹そのものの色や材質の美しさを考えて配色等の計画を立てている。 ○竹の特性を理解し、その美しさやよさを生かしながら加工したり、彩色したりしている。 ○生徒作品や外部講師が制作した参考作品を鑑賞し、言語活動を通して竹の持つ風合いや木目の美しさなど宇城市の伝統工芸作品の魅力学び、広報誌で地域に発信している。 | | |
| 美術への 関心・意欲・態度 | 発想や構想の能力 | 創造的な能力 | 鑑賞の能力 |
| ①自ら主体的に風車をつくらうとする態度を身に付けている。 | <ul style="list-style-type: none"> ①これまでの制作を振り返り、自らの課題を設定している。 ②和紙やビーズの配色や竹そのものの色や材質の美しさを考えて配色等の計画を立てている。 | <ul style="list-style-type: none"> ①竹の特性を理解し、そのよさを生かしながら加工している。 ②竹そのものの美しさを生かしながら彩色をしている。 | <ul style="list-style-type: none"> ①作品を鑑賞し、竹の持つ風合いや木目の美しさを感じ取っている。 ②松橋町の伝統的工芸品の魅力を学び取り、生活と美術のかかわりに関心を持っている。 |

4 指導・評価の計画(5時間取扱い 本時3・4/5)

題材を貫く「問い」：身近で安価なプラスチック製品と比較し、地元の伝統的な竹細工はどんな魅力があるだろうか。

| 次 | 時 | 学習活動 | 評価及び研究の視点 |
|---|-------------|---|---|
| 1 | 1 | 1 作品例を鑑賞し、竹細工に興味を持ち、竹の基本的な取扱いについて学ぶ。 2 竹の特性を生かすために、どんな玩具をつくるのか構想を練る。 | 【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【学びを引き出す】 ①竹で作られた籠等を実際に見て、触り、匂って使用目的等を問い、考えさせ、竹細工に関心を持たせる。 【発想や構想の能力】①②：ワークシート 【学びを振り返る】 ③振り返りの時間に学んだことをワークシートに記入させ、周りの生徒に学びを伝える。 |
| 2 | 1 | 3 4人グループで役割分担し、それぞれが学んだことをグループで確認し合い、制作の手順を確認する。 | 【関心・意欲・態度】①：ワークシート 【学びを引き出す】 ②自分が知り得た知識や技能をメンバーに分かりやすく伝えるミッションを持たせ、取り組ませる。 【学びを支える】 ⑥ジグソー法を活用し生徒に各々役割を持たせ、プレゼンし学び合いを促す。 |
| 3 | 3・4 (本時) | 4 作品の作り方を友達と教え合ったり、講師の先生に教わったりしながら竹細工作品をつくる。 (本時 2時間連続) | 【創造的な能力】①②：ワークシート及び作品 【学びを引き出す】 ②生徒が制作のポイントを理解し、意欲的に制作できるよう問いや視覚的教材を工夫する。 【学びを振り返る】 ③学習シートに竹細工指導者から学んだ言葉や生き方等を記入させ、発表させる。 【学びを支える】 ⑤黒板及びICTを活用し、制作のポイントを絞り込み分かりやすく提示する。 ⑦竹細工指導者と生徒との意見交換の場を設定し、松橋町の文化や子どもたちへの願いや希望について話をしてもらう。 |
| 4 | 5 | 5 出来上がった作品や竹でできた他の作品を鑑賞する。 6 よりよい生活を送るために、玩具をいつ、どのように活用するかを考える。 | 【鑑賞の能力】③：ワークシート 【学びを振り返る】 ④「振り返り」の時間に学習を通して、地域に根付く伝統技術に触れ、感じたことをまとめる。また、この題材を通して、身に付いた力は何か発表させる。 |

5 本時の学習

(1) 目標

- ①竹の特性を理解し、そのよさを生かしながら加工している。
- ②竹そのものの美しさを生かしながら彩色をしている。

(2) 展開

| 過程 | 学 習 活 動 | 指導上の留意点及び評価 | 備考 |
|--|---|--|--|
| 導入 10分 | <p>1 前時の学習内容を確認する。</p> <p>※ 講師の紹介をする。</p> <p>2 本時の目標を知る。</p> | <p>○竹の性質(弾性と塑性がある。竹の表皮が柔らかく加工しやすい等)を確認する。</p> <p>○風車を作るための編み方を確認する。</p> <p>【視点1】本時の問いにおいては、生徒の実体験や生活の中から答えを導き出せるよう、問いかける。</p> <p>○4人の竹細工教室の先生を紹介し、生徒の関心・意欲を喚起する。</p> | <p>外部講師 (前田氏 他) ICT機器</p> |
| 展開 80分 | <p>学習目標：加工するコツや竹の素材を生かす装飾を探り、松橋の伝統を受け継ぐ風車を作ろう。</p> | | |
| | <p>3 竹で羽を編む。</p> <p>(1) [本時の問い]について話し合う。</p> | <p>能動型学習(ポイント) 一人では難しい工程があり、グループで互いに協力することで作り上げられることを理解する。</p> <p>○グループで前時の役割を基に、協力して制作するよう指導する。</p> | |
| <p>[本時の問い] 竹の特性や、竹細工の魅力とは何だろうか、各グループで探ってみよう。</p> | | | |
| | <p>【言語活動】(設定の意図) 生活体験の豊かな生徒がいることが予想され、グループによる話し合い活動でそれを引き出したい。</p> <p>4 グループで、外部講師の助言等聞きながらよく回る風車の羽をつける。</p> <p>5 風車に和紙、ビーズを飾り、完成する。</p> | <p>○竹を柔らかくする方法、竹を装飾する方法、染色の方法、風車を組み上げる方法の各役割を担当した生徒が互いに助け合い、制作を協力して進める。</p> <p>○作り方をスクリーンに映像としてニーズに応じて流す。</p> <p>○グループ内で教え合うことを促す。教師と講師はグループを机間指導して回る。</p> <p>徹底指導(ポイント) 弾性と塑性が竹の大きな性質であることや竹の加工のしやすさについて理解する。</p> <p>【視点3】制作につまずきがある生徒には同じグループの生徒や外部講師による支援を行う。</p> <p>○持ち手となる部分に羽を竹ヒゴの軸で固定するよう指導する。和紙等で飾り付ける。</p> | <p>竹 1 人 4 本 水桶 針金 ペンチ</p> <p>ICT 機器</p> |
| 整理 10分 | <p>6 外部講師から、学習の振り返りや資質・能力等に関する話を聞く。</p> <p>7 活動の振り返りと次回の学習の予告を聞く。</p> | <p>評価：創造的な技能(作品・観察)</p> <p>B基準・竹の特性を理解して柔らかくしたり、固定して編んだり、工夫してつくっている。 ・和紙やビーズの配色や竹の色を考え、自分の意図した作品になるよう表すことができている。</p> <p>A基準・竹の弾性・塑性を生かして、美しく頑丈に編み上げている。・竹の美しさを生かした和紙等による装飾を計画的に行っている。 〈B基準に達していない生徒への手立て〉 ○外部講師が机間を回り、個別に指導・支援する。 ○教師はA基準に達している生徒に声をかけ、生徒同士の学び合いを促す。 ○できた作品を鑑賞するため、作品に記名して回収する。 ○振り返りの視点を示し、次時への意欲を高める。</p> <p>【視点2】外部講師による振り返りをした後、生徒による振り返りをし、本時の学習の定着を図る。</p> | <p>和紙 ビーズ のり 木工用ボンド</p> <p>学習シート</p> |

